第5回
「ぼうさい探検隊フォーラム」
実施報告書

日　時：2009 年 1 月 24 日（土）　13:30～16:10
場　所：ＫＦＣホール（東京都墨田区横網 1-6-1）
主　催：日本損害保険協会、朝日新聞社、ユネスコ、
　　日本災害救援ボランティアネットワーク
後　援：内閣府、総務省消防庁、文部科学省、警察庁、
　　全国都道府県教育委員会連合会、アジア防災センター、
　　日本ユネスコ協会連盟、日本ユネスコ国内委員会

プログラム

13:00　開場

13:30　開会　主催者代表挨拶
社団法人日本損害保険協会　専務理事　半田 勝男

13:40　第５回「ぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式

14:15　休憩

14:30　基調講演「これからの小学校における防災教育について」
文部科学省　スポーツ・青少年局学校健康教育課
安全教育調査官　長岡　佳孝氏

15:00　ぼうさい探検隊実践レポート
（1）「ぼうさい探検隊」地域での活用事例紹介
（2）「ぼうさい探検隊」体験報告
（3）総　評
ぼうさい探検隊マップコンクール審査員長　室﨑　益輝氏
（神戸大学名誉教授・関西学院大学教授）

16:10　閉会挨拶
朝日新聞社　ゼネラルエディター兼東京本社編集局長　横井　正彦

16:15　閉会

《　目　次　》

主催者代表挨拶…… P1
第５回「ぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式…… P2～P3
基調講演「これからの小学校における防災教育について」…… P4～P5
ぼうさい探検隊実践レポート…… P6～P9
総評・閉会挨拶…… P10
来場者アンケート集計結果…… P11～P12

主催者代表挨拶

日本損害保険協会
専務理事

半田　勝男

このフォーラムは、「防災教育から防災共育へ」とのテーマで、大人が子どもに防災を教えるのではなく、大人も子どもと一緒になって「防災を学び、そして育くんでいく」ことを願って、開催いたしました。

この「ぼうさい探検隊マップコンクール」も、今回で５回を数えます。今回は４６の都道府県から応募をいただき、あと１県で全ての都道府県からの応募となるなど、確実に全国でこの取組みが広がっています。また、作品も回を重ねるごとにとても素晴らしい作品が多くなり、しっかりと「まちなか」を探検した様子がよく分かるマップが大変増えてきたと感じています。

こうした中、改めまして、今回入選された児童の皆さん､本当におめでとうございます｡保護者の方々、そして先生をはじめご指導をいただいた皆様方、探検隊を実施されるに当たって大変ご苦労されたことと思います。敬意を表するとともに、衷心よりお祝いを申し上げます。

近年、地球温暖化の影響もあって、豪雪や台風、梅雨前線による集中豪雨災害など、多くの自然災害が日本のみならず世界中で発生しています。損害保険は、こうした災害や事故によって生じた経済的な損失を補償することで､「安全・安心」をご契約者の皆様にお届けしています。この「ぼうさい探検隊」は、この「安全・安心」に関わるもので、私どもが特に普及に力を入れている活動の一つです。

さて、阪神・淡路大震災から本年で 14 周年を迎えました。この「ぼうさい探検隊」プログラムは、阪神・淡路大震災を契機として、次世代の子どもたちに防災意識を継承する目的で始められたものです。しかし、震災後 14 周年ということで、震災の経験をしていない小・中学生の時代となり、震災の恐ろしさを語り継ぐことも形骸化することが危惧されています。今こそ、この「ぼうさい探検隊」の活動を通し、子どもたちが実体験の中で「防災」と「くらしの安全」を学んでいくことが重要になってきています。更に、この活動をサポートしていただいたボランティアの方々、地域の皆さん等、多くの方々と子どもたちとのコミュニケーションが図れるとともに、関わった方々にも「防災の知識」を身に付けていただき、防災意識の高揚に役立つという効用があります。

こうしたなか、小学校の学習指導要領が改訂され「防災教育」が取り入れられました。この「ぼうさい探検隊」のプログラムも、文部科学省が教諭向けに作成、配布している参考教材の中で、活動の一例として紹介されています｡「ぼうさい探検隊」が防災教育の中でも、重要な活動と位置づけられているものと自負しているところです。

本日は、文部科学省の長岡調査官からご講演をいただきますが、防災教育で悩んでいる指導者の皆様方にとって、大変参考になるお話しをいただけることと思います。また、この「ぼうさい探検隊」を子どもたちと一緒になって経験されることは、きっと役に立つものと確信しております。

最後に、この活動にご賛同いただき、惜しみないご協力を賜わりました政府機関､関係団体の皆様方、マップコンクールにご参加をいただいた方々、そして本日この会場にお見えいただいた方々すべてに、改めてお礼を申し上げますとともに、このフォーラムが実りのあるものになることを期待いたしまして、開会のご挨拶といたします。

ホワイエに展示された受賞作品に、多くの来場者が熱心に見入っていました。

第５回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式

第５回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」には、全国の小学校や子ども会など 241 校・団体から、1,235 作品もの応募がありました。厳正な審査の結果、入選 15 作品が決定し、入賞された７団体に対して次の通り表彰を行いました。

入賞団体・プレゼンター

◆文部科学大臣賞

受 賞 団 体 ：岡山県備前市立神根小学校「神根レンジャーバスターズ」
プレゼンター：文部科学省　スポーツ・青少年局　学校健康教育課　課長補佐　小林 洋介 氏

◆防災担当大臣賞

受 賞 団 体 ：滋賀県守山市ふけ町ふるさとクラブ　「ふけ町ふるさとクラブ夜回り隊 2008」
プレゼンター：内閣府 政策統括官（防災担当）付企画調整官（災害予防担当）　山崎 速人 氏

◆消防庁長官賞

受 賞 団 体 ：三重県鳥羽市安楽島子ども会「安楽島キッズ探検隊」
プレゼンター：消防庁 国民保護・防災部 防災課長　飯島 義雄 氏

◆まちのぼうさいキッズ賞（ユネスコ提供）

受 賞 団 体 ：徳島県徳島市立富田小学校「さわやかマップ隊」
プレゼンター：文部科学省 国際統括官付国際統括官補佐　清水 宣彦 氏

◆未来へのまちづくり賞（朝日新聞社賞）

受 賞 団 体 ：ガールスカウト日本連盟長野県第 34 団「もみじっ子防災探検隊」
プレゼンター：朝日新聞社 ゼネラルエディター兼東京本社編集局長　横井 正彦

◆わがまち再発見賞（日本災害救援ボランティアネットワーク賞）

受 賞 団 体 ：大分県別府市光の園子どもクラブ「光の園安全隊」
プレゼンター：日本災害救援ボランティアネットワーク 監事　鈴木 勇

◆ぼうさい探検隊賞（日本損害保険協会賞）

受 賞 団 体 ：徳島県三好市立佐野小学校「Ｓ．Ｂ．８（さの・ぼうさい・エイト）班」
プレゼンター：日本損害保険協会 常務理事 志鎌 敬

受賞校・団体の代表児童インタビュー

	【文部科学大臣賞「神根レンジャーバスターズ」】 —おめでとうございます。この賞を受賞したと聞いて、どう思いましたか？ 国重 沙弥さん：びっくりして夢かと思い、思わずほっぺたを叩きました(笑)。大きな賞をいただき、とてもうれしかったです。クラスのみんなで喜びあいました。
	【防災担当大臣賞「ふけ町ふるさとクラブ夜回り隊 2008」】 —マップづくりでは、どのような点を工夫しましたか？また、どんな苦労がありましたか? 小栗 はるかさん：わかりやすくなるように、見せ方を工夫しました。文章を短くしながら、しかもわかりやすくまとめるのがとてもむずかしかったです。
	【消防庁長官賞「「安楽島キッズ探検隊」】 —放水の届く範囲をていねいに調べていますが、どのように調べたのですか？ 中村 佳也さん：消火栓をひとつずつ見つけていき、放水のホースと同じ長さのロープを持って、みんなで協力して調べました。消防団の方々に協力していただいてよかったです。
	【まちのぼうさいキッズ賞「さわやかマップ隊」】 —14 人で作ったのですね。受賞の知らせを聞いて、一緒にマップをつくったみなさんの様子はどうでしたか? 赤松 優里佳さん：先生から受賞の知らせを聞いた時、「やればできるんだな」とうれしくなって、みんなで手を叩いて喜びました。
	【未来へのまちづくり賞「もみじっ子防災探検隊」】 —今年は6年生の2人ががんばって挑戦して､みごと連続受賞になりましたね。 吉沢 楓さん：前回に引き続き賞をいただき、とてもうれしく思いました。2人きりだったのでマップ作りはとても大変でしたが､協力してできたのでよかったです。
	【わがまち再発見賞「光の園安全隊」】 —いろいろな場所を取材していますが、まちの人の反応はどうでしたか？ 中島 弥子さん：まちのみなさんは、とてもやさしく接してくれました。おかげで、わたしたちもがんばって納得のいく作品を作ることができました。
	【ぼうさい探検隊賞「Ｓ．Ｂ．８（さの・ぼうさい・エイト）班」】 —8 人で作ったからエイト班なのですね。マップづくりの中では、どんな点に苦労しましたか? 峯原 恵さん：タイトルの文字を考えたり、使う写真を選んだりするところがむずかしかったですが、8 人で力を合わせて作りました。

基調講演「これからの小学校における防災教育について」

文部科学省
スポーツ・青少年局
学校健康教育課
安全教育調査官

長岡　佳孝氏

災害に備えるために考えること

もし今、この会場で地震が起こった場合、皆さんはどういった行動を取りますか。だんだん揺れが大きくなれば、椅子に座っている方は机の下に隠れますね。後ろの席の方であれば、カバンで頭を保護する、カバンがなければ手で覆って頭部を守ることを考えるでしょう。他にも、近くにガラスや倒れるようなものがあれば離れるといったことを考えるのではないでしょうか。

では、学校で地震が起きた場合はどうでしょう。教室にいる場合だけではなく、休み時間にグラウンドにいる場合、体育館にいる場合などさまざまです。また、登下校中に地震にあった場合、家に戻るか、学校に行くか、近くの公的な機関のところに避難をするかという判断をしなくてはなりません。また、その事前対策として、地震への備えを考える必要もあります。学校であれば、回りにある器具や棚などがきちんと固定されているかといったことに目を配り、日常的にシミュレーションをしたり、自分の命を守るために考えておく必要もあるのです。

地震の瞬間だけでなく、その後のことも考える必要があります。ライフラインが止まった場合、水がない、ガスが出ない、電気がない、そういった場合に生き抜くために何が必要なのかと考えること、前もって準備をしておくことが重要なのです。

こうした災害発生時に、自分の安全を確保したら、次は「自分にも、何か役に立つことはできないか」を考えてみてください。阪神・淡路大震災のとき、倒れた家屋の中に閉じ込められた人の自力で脱出できた方は35%程度だそうです。63%程度の方は家族の方、隣人、通行人、または友達から助けられたという記録があります。小学生という点を考えると、自分が助けてあげるというのは難しくても、近くに助けを求めている人がいたら大きな声で大人を呼ぶとか、励ましてあげるとか、そういうこともできるのではないかと思います。

このほか、学校などでの避難所生活という形になれば、ボランティア活動も出てきます。小学生であれば、その避難所におけるルールを守りながら、ごみを運んだり、掃除したりなど、小さなことでも支援することができます。

現在の防災教育の位置づけ

文部科学省では、学習指導要領において防災教育の狙いを3つの形で示しています。1つ目は、「災害時に自分の安全を確保する行動ができるようにする」ということです。2つ目が、「発生時または事後に、集団や地域などで役立つことができるようにする」ということです。3つ目は、地震、火山、津波、台風、風水害、落雷など、「さまざまな地域の自然環境による災害のメカニズムと災害について学ぶ」ということです。これら3つの目的に基づいて、防災教育が進められています。

ただし、「防災教育」という特別な教科があるわけではありません。学校教育の中では、さまざまな教科の中で、防災の狙いに沿った要素が入って進められている状況にあります。

例えば、安全な行動を身に付けさせる指導として、どういったときにけがをしやすいのかとか、そのためにどんなことに気を付けたらいいかということを体育や特別活動、安全指導で行っています。社会科では、消防署や消防施設のあり方などを調べ、地域の安全に役立てるための一つの知識として学んでいます。自然災害の発生メカニズムは、理科の時間な

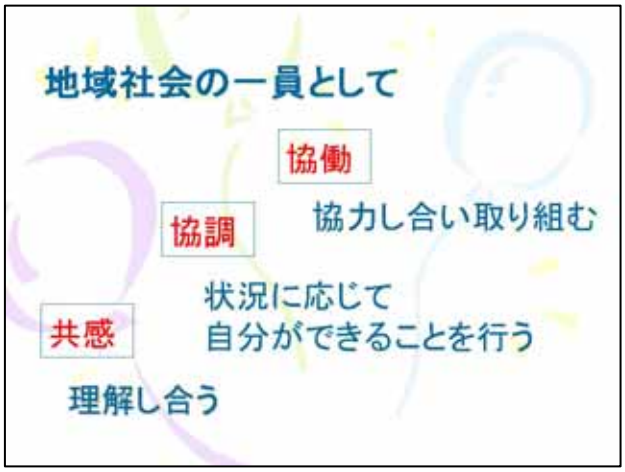
どに学んでいます。

このような学習のサポートとして、文部科学省では、防災教育について学ぶ教材を各小学校に配布しています。この補助教材の中では、有効な活動の一つとして「ぼうさい探検隊」もご紹介しています。

新しい学習指導要領における防災教育

2011 年から実施される新しい学習指導要領では、防災という観点から新たにいくつかの内容が追加されています。例えば、3・4 年生の社会科では、これまでは「火事があったときにどういうことを消防が行うか」という社会のシステムや働きを習っていたのですが、これからは「火事を予防する」という観点で新たに学ぶようになります。防犯のテーマでは、子ども 110 番の家などで地域の方々が協力をしている、もしくは見守り隊という形で防犯の活動をしているとか、警察の方もパトロールをしているといった内容も、社会科の中で入ってきます。今回受賞したマップにもありましたが、防火水槽などの設備がどこにあるのかとか、消防団の方々が地域の火事を予防するために活動しているといったことも学びます。防災のテーマでは、これも今回の受賞作品の中にも出てきましたが、砂防ダムの建設など、地域の人々が自然災害を予防するために取り組んでいることなどを学んだり、また、そこに働いている人々の思いや願いを感じたりするといったことも含まれてきます。

防災のために力を尽くしている人の思いや願いといったものも一緒に学ぶ、地域社会の一員となるという点で、「協働」「協調」「共感」という３つの言葉を挙げてみました。



自分の身近なところにどんな人がいて、どんな思いで、どんな活動をしているかということを小学生が学び、理解し合うということがとても大事なのではと思います。そうした意味でも、「ぼうさい探検隊」の活動はまさに「共育」であると感じました。マップづくりを通して、学校や地域ぐるみで、防災や地域社会を支えるための力をつけていっていただきたいと願っています。こうした活動を通じて、地域の「ひと・もの・こと」に関わった子どもたちが、将来の日本、いや世界を担っていくのではないでしょうか。

小学校の新学習指導要領に盛り込まれている
防災教育関連の項目については、次のようなものがあります

【1 年生・2 年生】

●生活科：通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持つこと
地域の人々や様々な場所と自分の生活との関りを理解し、親しみや愛着を持つこと

【3 年生・4 年生】

●社会科：関係機関（消防署、警察署、市役所、病院等）は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること
●道　徳：生活を支える人々や高齢者に対し、尊敬や感謝の気持ちを持つこと

【5 年生・6 年生】

●社会科：森林資源の働きや、自然災害の防止について関心を深めること（5 年生）
●理　科：火山の噴火や地震によって土地の変化が起こること（6 年生・必修項目）
●体育科：けがの防止について理解し、簡単な手当ができるようになること
●道　徳：働くことの意義を理解し、公共のために役立つことをすること

「ぼうさい探検隊」地域での活用事例紹介

日本損害保険協会
生活サービス部
安全安心推進グループ

今村　健二

当協会では、今後より多くの方々に「ぼうさい探検隊」を実施していただくために、マップコンクールにご応募いただいた小学校や団体の方々を対象にアンケート調査を行いました。241 校のうち 172 の学校・団体の方からご回答をいただき、多くのご意見や活動のヒントをいただきましたので、ご紹介します。

参加者の多くが「楽しかった、役に立った」と回答

当協会では、この「ぼうさい探検隊」を実施していただくにあたり、参加された小学生および大人の皆さんが「楽しみながら知識を身につける」ことを重視しています。今回のアンケート結果からは、小学生・大人の方々ともに、9 割以上の方が「楽しんで参加した」とご回答いただきました。また、「今後の役に立つと思う」という回答も 9 割以上となっており、実施された皆さんがとても満足して楽しんでいただけたことがうかがえます。

「ぼうさい探検隊」を継続して実施するために

アンケートの中で、今後も「ぼうさい探検隊」を継続的に実施したいという回答は 8 割以上となりました。その反面、継続的な実施をしたいとは思わないという回答も 1 割強ありました。主な理由としては「授業のカリキュラムに入れるのは時間的に難しい」「地域の変化は少ないので、数年に一度の実施でよいと思う」などのご意見がありました。

しかし、楽しみながら行うこの活動は、子どもたちにとっても大人たちにとっても、とても良い思い出になります。また、地域の変化は少ないとしても、毎年実施していくなかで地域の新たな一面も見えてきます。アンケートの回答の中には「毎年の定例行事になっており、子どもも大人も楽しみにしている」といった回答もありました。こうした事例を参考に、ぜひ定例化をご検討いただきたいと思います。

作成されたマップを活用すれば、地域が動く

アンケートでは、作成したマップの活用事例についても多くのご報告をいただきました。小学校や地域での掲示を行ったという事例が非常に多かったのですが、なかにはマップをもとに行政等に提言し、実際にまちの危険箇所が改善されたという事例もあります。

①マップの中の「崩れそうなブロック塀が危ない」という提言を受け、行政予算でブロック塀がフェンスに改修された（福島県相馬市）。

②「鉄骨がむき出しの橋脚が危ない」という子どもたちの発表の後、すぐに橋脚がコンクリートで補強された（高知県四万十町）。

このように、子どもたちの気づきや想いは、時として行政や地域を動かす大きな力となります。ぜひ、作成したマップを限られた場所で掲示するだけでなく、多くの場所で活用していただき、地域の安全安心に役立てていただきたいと思います。

「ぼうさい探検隊」を進めるためのキーワード

この活動をより楽しく有意義に行っていただくためのキーワードは、次の 3 つだといえます。

①消防署等、地域の方々の協力を得て企画し、まずは 1 回、実施してみましょう。

②1 度実施したら、翌年以降は定例化して、地域全体で継続することを考えてみましょう。

③作成したマップは、その後のいろいろな場面でぜひ活用しましょう。

未曾有の大災害となった阪神・淡路大震災から 14 年が経過し、防災に対する意識の風化が危惧されています。新しい時代を担う若い世代の方々に、防災の知識や意識を実体験の中から身に付けていただくために、ぜひ今後も多くの地域でたくさんの方が「ぼうさい探検隊」を実施していただけるよう、心から願っています。

「ぼうさい探検隊」体験報告

地域での活用事例の紹介に続いて、実際に「ぼうさい探検隊」に参加された小学生や大人の方々の「生の声」をインタビュー形式で報告しました。ステージ上には、2008 年 8 月 30 日（土）に東京・麹町地域で NPO 団体と児童館等が中心となり開催された「麹町地域ぼうさい探検隊」に参加された小学生 15 名と、活動の中心となった NPO 団体および地域の代表者 2 名にご登壇いただき、スクリーンに投影された写真を見ながら、当日の楽しかった様子や大人たちの反応を発表していただきました。

「麹町地域ぼうさい探検隊」に参加した小学生の皆さん

企画の中心となった「NPO コドモ・ワカモノ・まち ing」副理事長の中田 弾氏（左）と、「麹町小学校土曜ワーク・わく・クラブ」代表の谷 眞理子氏（右）

①「麹町地域ぼうさい探検隊」企画の経緯

ーこの企画の経緯や、特に留意した点をお聞かせください。

私が運営に関わっている「NPO コドモ・ワカモノ・まち ing」は、子どもたちと一緒に遊ぶことを目的とし、大学生ボランティアを中心とした NPO 団体です。この NPO 活動の一環として「ぼうさい探検隊」の活動を取り入れています。麹町地域での実施は今回で 2 回目となるため、今年はもっと地域全体に広げたいという思いがありました。多くの方々にご協力いただき、小学校単体のイベントではなく、地域全体の活動として実施することができました。

ー大学生ボランティアの皆さんは、どのように参加されていましたか？

参加した大学生のほとんどは「ぼうさい探検隊」は未経験でした。そのため、「最初は、防災について子どもたちにうまく教えられるか、不安だった」という声がありました。しかし、損保協会さんが実施された「リーダー養成講座」に参加したことで、「自分たちも子どもたちと一緒に楽しめばいいんだ」とわかり、積極的に取り組んでくれました。

②まちなか探検の様子

ー実施当日は、総勢 38 人の小学生と、大学生や保護者の方々など 15 名の大人たちが集まりましたね。8 つのチームに分かれて、まちなか探検を行った時の感想をお聞きしてみましょう。

- まちなか探検に行く前に皆で記念撮影をしたりして、楽しい一日になりそうだなと思いました。チームのみんなとも仲良くできて、おもしろかったです。
- チームには下級生も多かったのですが、上級生としてうまくまとめることができました。
- 消防署の見学では、消防車に実際に乗せてもらったり、火災現場に早く到着する工夫などを教えてもらい、すごいなと思いました。
- 私の役割は公衆電話などを探して地図にシールを貼ることでした。はりきって探したので、たくさん見つけられました。
- 区民館の中にある備蓄倉庫では、非常食や災害時用毛布などがたくさんありました。色々なものが準備されている事は知らなかったので、びっくりしました。

③マップ作成の様子

ーまちなか探検をした後は、発見したことや感じたことをまとめ、チームごとに工夫を凝らしながら楽

しくマップ作成を行っていましたね。どういう点を特に工夫しましたか？

・まちなか探検中にとったメモをもとに、みんなで話し合いながら、マップを作りました。
・マップを見る人にわかりやすいよう、まとめた事をきれいな字で丁寧に書きました。
・写真をきれいに切ったり、貼る位置などを工夫して、目立つマップになるようがんばりました。

④マップ発表の様子

ー作成したマップをもとに、各チームから発表を行いました。みんなの前で発表した感想はいかがでしたか？

・みんなに注目されて少し緊張しましたが、調べたことをちゃんと発表できました。
・写真を貼っていろいろと工夫したマップだったので、それをアピールしながら、聞いている人にわかるように発表しました。

⑤避難所体験・レスキュー実演

ーこの「麹町ぼうさい探検隊」では、麹町小学校の体育館を使った避難所体験や、消防関係者による放水体験・レスキュー模範演技なども取り入れていましたね。

・小学校の体育館で避難所体験をした時に、一人分のスペースがあまりに狭くて驚きました。
・消防団の人と一緒に、放水体験をさせてもらいました。ホースがすごく重くて、なかなか思ったところに水が当たりませんでした。
・防火服を着せてもらいました。重くて暑くて、レスキュー隊員は大変だなと思いました。

ー通常の「ぼうさい探検隊」プログラムに加えて、このような避難所体験やレスキュー模範演技などを盛り込んだ意図をお聞かせください。

中田さんからもあったように、今回の企画では「地域のつながり」を重視しました。そのため、避難所での共同生活を想像したり、万一のときに地域の大人たちが頼りになる様子を子どもたちに見せたい、と考えました。子どもたちにとっても、地域の大人を見る目が変わったのではないでしょうか。企画に快く賛同し、協力して下さった消防署や消防団の方、区民館の方などにはとても感謝しています。

⑥全体を通じての感想

ー「麹町ぼうさい探検隊」に参加してみて、全体の感想を聞かせてください。

・今まで知らなかったことを体で学ぶことができた一日でした。もし災害が起きたら、とても大変だということが、よくわかりました。
・いつ災害や地震があるかわからないので、どこに何があるか調べておかないといけないと思います。作成したマップは、お母さんなど、色々な人に見てほしいです。

ー大学生の方々の感想はいかがだったでしょうか。

普段はあまり意識しない「防災」について考える機会を与えてもらえて良かった、という感想が多くありました。子どもたちと一緒に楽しみながら学べた、自分たちにとっても新しい発見があったという感想も寄せられています。

ー地域の代表として、どのような効果があったと感じますか？また、今後のマップ活用などは予定されていますか？

今回の活動は、地域の大人に対して「子どもたちを守ってください」というアピールにもなりました。子どもたちと地域の大人たちを繋ぐ良い機会として、継続していく事が大事だと思います。作成したマップも、協力してくれた各所への展示などを通じ、今後も活用していきたいと思っています。

総　評

ぼうさい探検隊
マップコンクール
審査員長

室﨑　益輝氏
（神戸大学名誉教授・
関西学院大学教授）

身近なテーマを大切に

今回の審査で特に感じたのは、テーマの選び方がとても良くなっていることでした。たとえば、「本当に消火栓からの放水が届くのだろうか」と子どもなりに感じた疑問を確かめることにテーマを絞ったマップや、急傾斜地が多いまちの特徴を捉えて土砂災害をテーマにしているものもありました。他にも、お年寄りや外国人の方々の避難をどうすればよいか、下級生たちをどう守るかといった優しい気持ちが表れた作品も印象的でした。回を重ねるごとにテーマが掘り下げられ、身近な問題を取り上げるようになってきています。

子どもたちの願いや提言の豊かさ

マップづくりで大切なビジュアル性ですが、色づかいや写真・イラストで見やすくするだけでなく、伝えたい気持ちを表現している作品が印象に残ります。イラストと写真を使って地域の景色と自分の気持ちを重ね合わせるなど、見ていて楽しくなる作品も多くありました。マップの中に質問列車がある作品からは、列車が理想の社会へ走って行くようにという願いが感じられました。また、審査では提案性にも注目していますが、大人や地域に対する要望だけでなく、「私たちがこうします」という自発的な素晴らしい提言も多く見られました。学習効果という点では、質問やインタビューをする、わからなかったことを後でもう一度わかるまで調べるといった努力の跡が見える作品も多く、私も審査をしていてとても嬉しい気持ちになり、力づけられました。

「ぼうさい探検隊」は学び合いの場

今回のフォーラムは、「防災教育から防災共育へ」が１つのテーマになっています。審査の中で指導者の先生方の感想も読ませて頂いていますが、このコンクールが、先生と子どもの学び合いの場になっていると強く感じました。準備などを通じて、実は先生方や指導者の方々が一番勉強されているのではないでしょうか。子どもたちだけでなく、先生方も進化しているわけです。

子どもが変われば親が変わりますし、先生方や地域の大人たちも変わります。この「ぼうさい探検隊」を通じて皆が育ち合うという素晴らしさを、私も再確認しているところです。今後も更に、この活動を日本中に広げていきたいと思います。

閉 会 挨 拶

朝日新聞社
ゼネラルエディター
兼東京本社編集局長

横井　正彦

応募総数 1,200 以上の作品の中から、栄えある賞を受賞された皆さん、おめでとうございます。そして、この活動を支えていただいた保護者の方々、先生や指導者の方々、この活動に参加してくれた全ての子どもたちにも、心から感謝したいと思います。

先ほど、ステージ上で児童の方が「いつ災害が来るかは、わからないから」とおっしゃいました。私は、この一言にこの活動が集約されていると思いました。遠い未来ではなく、今ここで災害が起きるかもという想像力が、防災の何よりの力だと感じます。

今回の作品にも、自分たちのまちを、他の誰でもない自分たち自身の手で守る、そんな思いがあふれていました。その思いを、いつまでも持ち続けてほしいと切に思います。私たちも、災害の被害が少しでも減らせるように、この活動を朝日新聞の紙面を通じて今後も力を尽くしていきたいと思います。

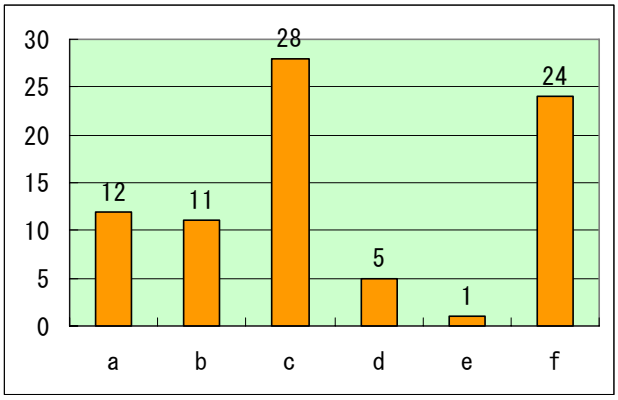
最後になりましたが、日本損害保険協会をはじめ、この素晴らしい活動を共に作り上げていただいている皆さんに、心からの感謝を捧げまして、私からのご挨拶といたします。

来場者アンケート集計結果

◎参 加 者 数： 270 名　アンケート回収数 76 枚　回収率：28.1%
◎回答者性別：男性 36 名、女性 39 名（無回答 1 名）
◎回答者年齢：10 歳代　6 名　　20 歳代　10 名　　30 歳代　19 名　　40 歳代　23 名
　　50 歳代　8 名　　60 歳代　7 名　　70 歳代　2 名（無回答 1 名）
◎回答者所属：教育関係者　8 名　　消防・警察関係者　6 名　　学生　7 名
　　行政関係者　6 名　　損保関係者　6 名　　その他　42 名（無回答 1 名）

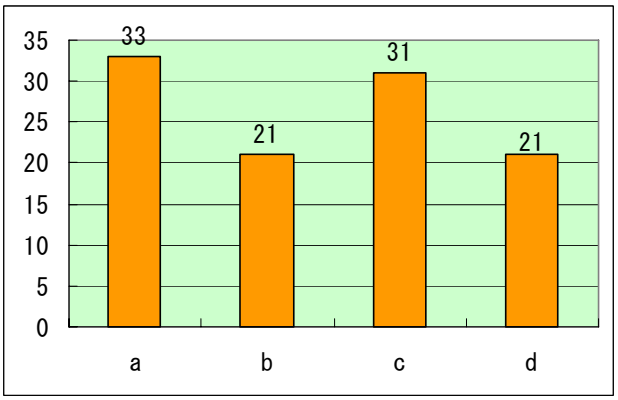
Ｑ１．今回のフォーラムを何でお知りになりましたか？(複数回答含む)

a. 当協会のホームページ・・・・・・・・・・ 12 名
b. 開催チラシ・・・・・・・・・・・・・・・ 11 名
c. 友人・知人の紹介・・・・・・・・・・・・ 28 名
d. 新聞・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 名
e. メルマガ・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 名
f. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24 名
(子どもが受賞したので、学校の先生からの案内、
職場での案内、ガールスカウトの会報　等)



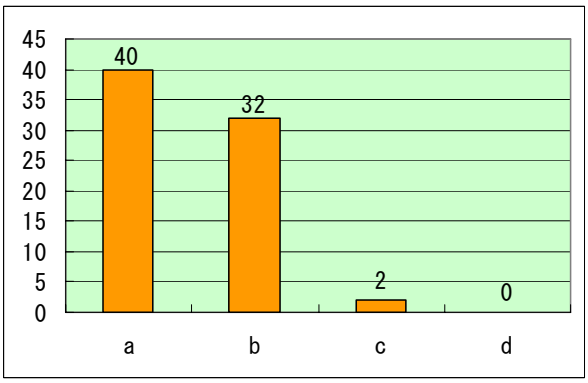
Ｑ２．今回のフォーラムに参加された動機（理由）をお聞かせください。(複数回答含む)

a. テーマ「防災教育から防災共育へ」
に興味があった・・・・・・・・・・・・・33 名
b. マップコンクール表彰式に
興味があった・・・・・・・・・・・・・・21 名
c. 基調講演や「ぼうさい探検隊実践レポート」の
内容・出演者に興味があった・・・・・・31 名
d. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・21 名
(防災教育に興味があった。損保協会の取り組みに
興味があった、毎年参加しているので　等)



Ｑ３．今回のフォーラムの感想はいかがですか？

a. 大変興味深かった・・・・・・・・・・・40 名
b. 期待どおりであった・・・・・・・・・・32 名
c. やや期待はずれであった・・・・・・・・ 2 名
d. 期待はずれであった・・・・・・・・・・ 0 名
※無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 名
＜主なコメント＞
・防災を身近なものとしてとらえることができた。地域を見直すきっかけにもなった。



・表彰式、講演、実践報告書などなど内容が盛りだくさんだった。展示してあるマップもどれもすばらしく、見に来て良かったと思った。
・子どもの時から防災に対する意識を高めていくことが大切だと思うので、子どもたちを対象にしたフォーラムになっていた点が良かった。
・「ぼうさい探検隊」の活動自体を知らなかったが、フォーラムに参加して刺激を受けた。日々生活していると防災意識を持つ事はなかなかないので、意識づけということで大変意義があると思う。
・第 3 部のアンケート結果を見て、参加者の評価が高かったことが非常に印象に残った。また、その後に実際に参加した子どもたちの感想を聞くことができ、有意義であった。

Ｑ４．今回のフォーラムで特に印象に残った内容を簡単にお聞かせください。

・表彰式で賞状を受けとる子どもたちの表情がとても印象的だった。東京からも入賞者が出るように、地域に「ぼうさい探検隊」を広めたいと思う。
・長岡氏の講演の内容が、教育から共育へのテーマに合っていて良かった。協働、協調、共感という言葉が印象に残った。防災・減災のために求められる行動について、小学校・家庭で日頃から話し合っておくことや、日常的にとっさの判断行動ができるよう訓練しておくことの必要性を感じた。
・実際に「ぼうさい探検隊」に参加した子どもたちの感想が特に印象に残った。子どもたちの感想を聞き、本活動の有意義が十分に伝わってきた。
・「ぼうさい探検隊」実践レポートの中で、大学生や地域の人たちの感想報告と子どもたちとのディスカッションが良かった。
・室﨑氏の総評がわかりやすく、心に響いた。

Ｑ５．今回のテーマ「防災教育から防災共育へ」について、普段感じていること、あるいは地域や家庭で実践していることなどがありましたらお聞かせください。

・地域資源について、普段から知る努力をしている。ネットやチラシや地域に関する読み物で情報を得ている。
・大学周辺の小学校で夏に防災キャンプを実践し、マップも作っている。子どもたちが自発的にまちの危険箇所を見つけたり、危険を避ける方法を考えたりしている。
・事例報告の中で紹介されていた「地域で行った発表が橋の補修につながった」という事例は参考になった。自分の住む地域でも、事故防止のための運動につなげられないかと思う。
・学校のみならず地域の方々と共に防災について学び交流を持つことが、実際の災害が起きた時の助け合いなどにつながり、大切なことだと感じた。
・地域で開催している催し物にはできるだけ参加し、地域の方々の顔を相互に覚え、親しくお付き合いをすることにより、日頃からの信頼関係を築いておくことにしている。

Ｑ６．今後、こうしたフォーラムをより良いものとするためにお気づきの点やアイディア（次回企画してほしい内容や講師など）がありましたらお聞かせください。

・災害時に行えるボランティア活動の事例などを具体的に紹介してほしい。
・阪神・淡路大震災を経験した方の話を実際に聞けるとよいと思う。（人と防災未来センターの方など）

社団法人 日本損害保険協会　会員会社一覧
（50 音順、2009 年 3 月現在）

あいおい損保	セコム損害保険	ニッセイ同和損保
朝日火災	セゾン自動車火災	日本興亜損保
アドリック損保	ソニー損保	日本地震
アニコム損保	損保ジャパン	日立キャピタル損保
エイチ・エス損保	そんぽ２４	富士火災
ＳＢＩ損保	大同火災	三井住友海上
共栄火災	東京海上日動	三井ダイレクト
ジェイアイ	トーア再保険	明治安田損保
スミセイ損保	日新火災	

社団法人　日本損害保険協会
〒101-8335　東京都千代田区神田淡路町 2-9
URL http://www.sonpo.or.jp/
【お問い合わせ先】
生活サービス部　安全安心推進グループ
TEL 03-3255-1294　　FAX 03-3255-1236